

「初夏の西浦はすでにヒートアップ！」



見事に初優勝を飾った！ #108



2戦連続2位は本物！ #11



少々不調でもここまでくるのはさすが #70



これまたシブい走りが魅力 #92

2014K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第2戦が愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。開幕戦からほぼ2か月のインターバル、早くも今年も接戦の様相。初夏の蒲郡は日差しこそ暑いものの、爽やかな風がほほに心地よい。

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

盤石の戦いぶりで開幕戦を制した開幕戦を制した#70「トータルセブン GT シビック」、侮れないポテンシャルを発揮し2位表彰台の#11「ガレージアンリミテッド マーチ」、レース巧者#92「ワンナイヴィッツ」と表彰台3チームに加え、マイナー車ながら仕上がれば面白い存在の#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」と開幕戦で上位を占めたチームは全員参加。そこに昨年の第4戦以来の参戦となる#108「IDI マルヨシスターレット」、初参加の#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、さらに当初はカローラFX(!)で3Cクラス参戦予定だったがマシンとクラスを変えた#45「インフィニティー昭和なFXシビック」と計7台のエントリー。

■予選

予選トップは#108「IDI マルヨシスターレット」1'06.193、昨年出場時は不運もあって結果を残せなかったが速さは印象的だった。そのポテンシャルをついに発揮したか見事予選トップ。2番手には#11「ガレージアンリミテッド マーチ」1'06.368が付ける。開幕戦での2位表彰台の実力は本物でK12 マーチ要注意。3番手は#45「インフィニティー昭和なFXシビック」、1'07.458、マシンそのものは開幕戦の#98「むちむちプリンシビック」のEG4でドライバーも一部重なっていることもあり3番手に飛び込んだ。4番手には#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」1'08.178、開幕戦より1.5秒弱タイムアップ、マシンの進化が感じられる。5番手は#70「トータルセブン GT シビック」1'08.345、少々出遅れの感はあるが、実力者が後方から追いつきのレースも楽しみだ。6番手は#92「ワンナイヴィッツ」が1'08.938、こちらも少しタイムが伸びなかったか、巻き返しに期待。7番手は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、プラクティス中に他クラスと接触があったようだが、1'09.023で予選通過。全車が10秒を切るタイムというのは1+2Cクラスのポテンシャルが上がっている証拠、僅差の戦いが幕を開ける。

■序盤

序盤は#11「ガレージアンリミテッド マーチ」と#108「IDI マルヨシスターレット」がトップを争う、これまで見てきたVTiシビックの独走とは違う雰囲気漂う。3番手を#70「トータルセブン GT シビック」と#45「インフィニティー昭和なFXシビック」が競り合う、こちらはEG対EKの争い。

中団ではヴィッツ対決、経験豊富な#92「ワンナイヴィッツ」が先行するが、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」も遅れまいとついていく。予選タイムではマシンの熟成が進んでいるように見えた#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」は後方からの追い上げ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤はしっかりと#108「IDI マルヨシスターレット」がトップをキープ、トップへの挑戦権をかけて#11「ガレージアンリミテッド マーチ」と勢いを回復してきた#70「トータルセブン GT シビック」が争う展開。少し開けて#45「インフィニティー昭和な FX シビック」も上位進出をあきらめてはいない。ヴィッツ対決も白熱、1時間30分経過時で全くの同Lap！#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」はステアリングの異常を感じとり緊急ピットイン。結局ラックのトラブルからリタイヤとなったが、コースアウトは免れた。

■終盤

終盤にかけてもトップを守る#108「IDI マルヨシスターレット」、だが残り30分で2位の#11「ガレージアンリミテッド マーチ」とは1Lapの差、全く気を抜けない。さらに1Lap差で開幕戦優勝の#70「トータルセブン GT シビック」がマーク、さらにさらに1Lap差でヴィッツ対決を制した#92「ワンナイヴィッツ」が付けており最後まで目を離せない。

■最終結果

第2戦優勝は#108「IDI マルヨシスターレット」、念願の初ポイントはなんと初優勝！もともと地力のあるチームだが、今回はその歯車をしっかりとかみ合わせたの栄冠となった。2位には#11「ガレージアンリミテッド マーチ」が2戦連続で入り、いよいよそのポテンシャルが証明されることに。3位は#70「トータルセブン GT シビック」、予選の出遅れを挽回しての3位表彰台。4位は#92「ワンナイヴィッツ」、ポディウムまではあと1Lapとこちらもしぶとさを発揮。5位は#45「インフィニティー昭和な FX シビック」当初の予定とは変わったが、しっかりと入賞。6位は初出場の#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が見事完走。

■総評

昨年から続いた1500シビックの連勝を止めたのは、スターレット。そして2位には連続してK12 マーチが入り、すこし風向きが変わってきたこのクラス。しかしながらシビックは3位に入り車種としては昨年から全戦表彰台を継続中。次は真夏の決戦4時間耐久、ここを制するものがシリーズの流れを掴む。はたして勝利の美酒に酔うのはどのチームか。



昭和な FX も見てみたい #45



大事に至らなくてなにより #67





昨年からハットトリック達成！！ #87



ストップザ#87の有力チームは2位 #62



またしても頂点ならず #450



欧州代表は4位 #106



111 対決では勝利 #111

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

10台という2ケタのエントリーで激戦のクラスとなっている3Cクラス、開幕戦は#87「IDI瀬戸自動車SYC シビック」が制しシーズンをまたいで2連勝と勢いに乗る。それに挑むのは#450のトルネオ、#62CLNのシビックといったところだが、OPクラスで連続チャンピオンの#110がAE111レビンを持ち込んできたことで勢力図はどうか注目が注目。

■予選

予選では注目の#110「DXL アライメント浜松レビン」が1'02.646でトップを獲得。車重がOPクラスのシティに比べると重そうでブレーキングポイントは手前のようなが、新マシンで02秒台は立派。予選2位は#450「トルネオの大冒険」1'02.657で横につける。こちらも車重的には重いマシンだが開幕戦についで予選2位と一発の速さは充分か。予選3位は#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」1'03.009、まずまずの位置から連勝を狙う。4番手は#62「WN CLNシビック」が1'03.042でつけ、昨年のチャンピオンチームが今季初優勝を狙っている。5番手は#33「ボディショップ國盛ミラージュ」1'03.325でこれまた実力派チーム、6番手は昨年までロードスターを走らせていたNAH RacingがS2000を持ち込んできた。GT耐久初見参となる#22「NAHレーシング S2000」の走りにも注目、まず予選タイムは1'03.706を記録し中団につけた。予選7位は今大会唯一の欧州車、#106「D&M スパイクオート 106」1'03.900、8位は#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」1'06.542、AE111 使いとしては負けられないところだが、この予選は少しタイムが出ない。9位は#75「DXL シーワン EP82」1'07.278、新しく入れた青いストライプが今日の天気にも映える。そして最後尾ながら予選通過を果たしたのは#107「トータルセブンロードスター」でタイムは1'10.951。

■序盤

序盤は#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」を中心に、各チームがトップ争い、注目の#110「DXL アライメント浜松レビン」と#22「NAHレーシング S2000」もトップをうかがう走りを見せて序盤を盛り上げる。以下実力派の#62「WN CLNシビック」、#450「トルネオの大冒険」が上位陣をロックオンする展開、#106「D&M スパイクオート 106」、#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、#107「トータルセブンロードスター」も遅れずについていく。

残念なのは#75「DXL シーワン EP82」、ハブボルトが折れたため惜しくも20Lapでリタイヤとなってしまった。

■中盤

レース中盤で上位を争うのは、#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」と#33「ボディショップ國盛ミラージュ」。それを#450「トルネオの大冒険」と#62「WN CLNシビック」がそれぞれ1~2Lap差で追いかける。中団グループでは#110「DXL アライメント浜松レビン」と#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」のAE111争い。どちらも本調子とはいかないようだが、同車種（この場合はレビン VS トレノというさらに盛り上げる要因がある）バトルではプライドがある。

その後方からは#106「D&M スパイクオート 106」、#22「NAHレーシング S2000」、#107「トータルセブンロードスター」もまだまだあきらめない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤で首位固めに入ったのは#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」、2位以下に2Lapほどの差をつけてレースをコントロール。残り30分の時点では全体のタイムボードのトップで、このまま総合優勝を目指す。それを追うのが#62「WN CLNシビック」と#450「トルネオの大冒険」、上位をホンダ車が占める。市販車改造レースではやはりホンダ車が強い。

その表彰台争をかけてトヨタ車、三菱、欧州車を代表するスポーティーカーがしのぎを削る光景は3Cクラスの面白さだろう。

■最終結果

ゴールももうまもなくといったところで、表彰台争いをしていた#33「ボディショップ 國盛ミラーージュ」が立体交差下でバランスを崩してクラッシュパッドに接触してしまう。パッドの下にめり込んだが幸い、マシンとドライバーにダメージはなく、フロントバンパーを脱落しただけで戦線復帰。

この赤旗があったものの、最後までトップを守り切ったのは#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」、昨年から続く3連勝をなんと総合優勝で飾った。2位には#62「WN CLNシビック」、3位には#450「トルネオの大冒険」という表彰台。

4位はしぶとく追い上げた#106「D&M スパイクオート 106」、5位は同車種対決を制した#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、6位は戦線復帰の#33「ボディショップ 國盛ミラーージュ」、7位はニューマシンを完走にまで持ってきた#110「DXL アライメント浜松レビン」、8位もまたニューマシンの#22「NAHレーシング S2000」、9位は前戦に続きしっかりと完走を果たした#107「トータルセブンロードスター」。

■総評

注目のOPクラスチャンピオンアライメント浜松レビンは、シティとは全くタイプの違うマシン。レース中の最速ラップは2秒台中盤だが、「終盤にはタイヤがタレてしまった」とチーム代表が語るように今後の熟成がカギか。さらにもう一台のS2000も同様に「ゼッケンすらあわてて貼った」(チーム関係者)とこちらも熟成途上ながら、序盤はトップ争いを繰り広げるポテンシャルを披露した。

昨年から3連勝の#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」は盤石の体制で真夏の4時間耐久を迎える、このまま連勝街道を伸ばすのか、それとも新たな刺客の登場はあるか…



大事なく無事完走で6位 #33



あとはマシンの熟成次第か #110



こちらもマシンの熟成に期待 #22



今回も頑張った #107



残念ながらリタイヤ #75





「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

開幕戦ではフロントローからスタートした#19「YADOKARIシビック」が見事総合でもトップとなる優勝を飾った。一方でこのクラスの2年連続チャンピオンチーム#110のアライメント浜松シティはマシントラブルで戦列を離れる結果に。第2戦ではその#110はレビンにマシンを変え3Cクラスに出場となった。この有力チームの移籍がシリーズに与える影響はいかに。

■予選

予選では相変わらずの章駄天ぶりを見せつけた#18「T-BODY エクセルインテグラ」が1'011.168で”定位置”のPPに帰ってきた。その横に並ぶのは#15「KWR・IDI スターレット」1'01.234で初PPをとった開幕戦よりもタイムアップ。3番手は#19「YADOKARI シビック」1'02.265、開幕戦優勝の勢いにかけて2連勝となる。4位は金沢から遠征の#76「ヒロエンタープライズ EG」1'02.758、でっかいお土産も持って帰ることができるか。そして5位は#84「浜松日産メビウスマーチ」1'04.996。

■序盤

序盤まずトップ争いをしたのは#15「KWR・IDI スターレット」と、#18「T-BODY エクセルインテグラ」、それを#76「ヒロエンタープライズ EG」が同一周回で追う。少し離れて#84「浜松日産メビウスマーチ」、#19「YADOKARI シビック」は早めの義務ピット消化という作戦に出る。

■中盤

中盤はホンダ車同士のトップ争い、早めのピットインから順位を上げてきた#19「YADOKARI シビック」、#18「T-BODY エクセルインテグラ」、#76「ヒロエンタープライズ EG」が上位を走行。それを#15「KWR・IDI スターレット」がピッタリとマークという展開。#84「浜松日産メビウスマーチ」はマシン不調かピットに入った時間が続く。

■終盤

終盤にはいっても#18「T-BODY エクセルインテグラ」と#19「YADOKARI シビック」は激しく争う、#15「KWR・IDI スターレット」は2Lapの差をつけられ優勝争いから一步後退か。ピットで作業をしていた#84「浜松日産メビウスマーチ」は結局復旧できずレースをリタイア。

■最終結果

最終盤での他クラスの赤旗という事態もあったが、アツいバトルは1Lap差で#18「T-BODY エクセルインテグラ」が逃げ切り、2012年の最終戦以来の優勝を飾った。開幕からの連勝を狙った#19「YADOKARI シビック」は惜しくも2位。3位にはレース中のファーステストラップを記録した#15「KWR・IDI スターレット」が入った。#15は開幕戦がPPからのスタートで3位、「今回は初優勝を！」と意気込んでいたがわずかに及ばず3位となった。4位の#76「ヒロエンタープライズ EG」は表彰台までは及ばなかったが、北陸の雄の存在感を見せての入賞という結果。



久々の勝利の味 #18



連勝を狙ったが惜しくも2位 #19



またもや初優勝ならず #15



Race Report

■総評

有力チームの一つ#110「DXLアライメント浜松シティー」が開幕戦のマシントラブルから3Cへと移ったこのクラスだったが、ふたを開けてみればやはり僅差の戦いだった。今回は総合優勝こそ3Cクラスに譲ったが、改造車クラスならではの速さを見せた#15「KWR・IDIスターレット」や#18「T-BODY エクセルインテグラ」、#19「YADOKARI シビック」は濃密なバトルを展開、どこが勝ってもおかしくないレースだった。

次戦以降の展開としては2012年以来の優勝を飾り、完全復活を印象付けた#18「T-BODY エクセルインテグラ」と、開幕戦優勝で、第2戦で2位となった#19「YADOKARI シビック」のがっぷりと組んだ戦いが注目。次戦の4時間耐久はポイントも割増されるため、シリーズの流れを引き寄せるには落とせない天王山。アツき戦いはまだ始まったばかりなのに、すでに全開だ！



金沢から遠征ご苦労様です！ #76



残念、復旧ならずリタイヤ #84



暑いからおおぎましようか～

